

鹿児島原告団の団長・鬼塚建一郎さんは吉林省敦化県の収容所で酷寒の2月、実母テルさん死亡のあと孤児となり、周囲の人たちの手で粟20キロと引き換えに鄧兆学、李振清夫妻に預けられた。

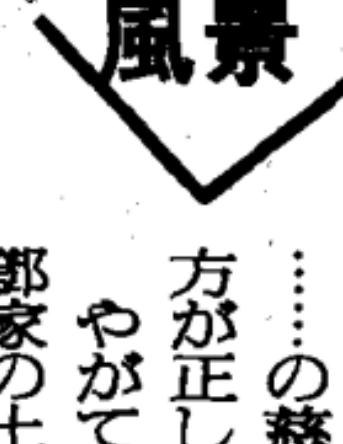
満拓(満州拓殖公社)から10町歩の土地を借り、作男3人を使つていた借地農・兆学さんは、満州国崩壊

井出 孫六

と共に一転して大地主となつた。2人の娘しかいなかつた彼が後継者に擬して孤児を引き取つたと考えるより、養父母とも、東に泣く子あれば……の慈悲心の持ち主だつたと見た方が正しい。

やがて訪れる土地改革の嵐の中、鄧家の土地の9割が貧農に分け与えぬ少年に古びた中国語辞書を渡し、尊嚴を傷つけられたものの悲しみの聲と受け止めるべきだ。(作家)

こころの風景



子"が被^かされようとも、少年に向^{むか}へて詰め込まれた漢字が帰國後の日本に詰め込まれた漢字が帰國後の日本語習得に役だつて、鬼塚さんはいまながら、広い知識と品性と人格を備えていた。東北の阿Qたちは反面教師に事欠かなかつたのであろう。

「中国殘留孤兒」の訴状に、生活保護を打ち切られ、養父母の墓参もか

牛の世話で農繁期、小学校に通えなわなかつたという声が多いのは、尊嚴を傷つけられたものの悲しみの聲と受け止めるべきだ。(作家)